



蒲幼稚園 No.2 R6,5,10

# 完全復活！ 藤の花

満開の時を終えて、連休前にはすっかりと葉ばかりになったフジの花。今年は昨年以上にたくさん花芽を付け、見事に咲き誇ってくれました。手入れをしていると、通りがかったご近所の方々がよく声をかけて下さいました。「立派にツルが伸びましたね」「確か以前の園庭にもフジがありましたよね」「今年も楽しみにしていますよ」こんなにも温かくフジの様子を見守ってくださっていることがとても嬉しかったです。また一つ、私たちの園庭の自慢が増えました。

私たちにとっては、思い入れのある藤の木。その訳については、蒲幼稚園ホームページ「映像でみるようちえん「藤の花のおはなし」」をご覧ください。



## 藤の花に来るお客様

大きな羽音をたてながら、藤の花にやってくるのは「キムネクマバチ」。どうやら藤の花の蜜は、クマバチのような力強さがなくては採取できないようなのです。そのため、藤の花にとっては大切な大切なお客様。体の大きさと大きな羽音におのいてしまうかもしれませんが、どうぞそっと見守ってあげて下さいね。きわめて性格は穏やかで、行動的なオスは針すらもっていません。メスには毒針がありますが、人間には無関心。巣を荒らすなど滅多なことがなければ刺すことはないようです。花と虫とのよくてきた関係を知ると、自然界への興味も湧いてきます。



### 虫は怖いもの…？

「虫」と聞いただけでひ～っと虫唾（むしず）が走る方もいるでしょう。誰にでも苦手なものが一つや二つ、いやいやそれ以上あるものです。でも、様々な情報が得やすくなった世の中に生きる今の子どもたちは、実体験よりも先に情報を得ていることが多く、何も知らない状態でただ毛嫌いするということが多くなったように感じています。少し前の子どもたちからよく聞かれた「危険生物」という言葉に、私はずっと疑問を感じていました。何をもち「危険」と言われているのか？人間から見た一方的な捉え方ではないかと。

自然界には、毒を持つものはたくさんいます。人間の命をも脅かす毒もあります。だから正しい情報を得ることは大切なことです。でも、単純に「危険」＝「嫌い」としてしまうことはどうでしょうか？それにより、「虫」全てに興味を持てなくなってしまうことは、とてももったいないことです。例えば、虫と植物との関係に目を向けてみてください。各学年で取り組み始めた野菜や花の栽培に虫たちの協力は欠かせません。また、特定の虫の一生に関わってみるのも楽しいでしょう。変態する過程は、神秘的で不思議そのもの。ダンゴムシがいなくては、地球はゴミだらけになってしまいます。「ハチ」と聞いただけで騒ぐのはむしろ逆効果。「ハチ」にもいろいろな種類がいて、やり過ぎし方が違います。それぞれの役割を果たし、この世の中は成り立っているのです。自分の感覚を子どもに押し付けるのではなく、得意な人に任せてみるのもいいですね。

## 散りばめられたおもちゃ



地面におもちゃがたくさん散りばめられていました。「まったくもう、出しっぱなしじゃない！」片付けようと近寄っていくと、おもちゃを手に地面をじっと見つめている子がいました。足を止めた様子をうかがっていると…

「あ、こっちにいた」勢いよくおもちゃを被せます。もう一人の子は、地面に這いつくばるようにして次々とおもちゃを被せていきます。どうやらアリを捕まえているようです。暖かくなり、虫たちの行動は活発になりました。おもちゃが散りばめられているすぐ傍には大きなアリの巣があり、続々と働きアリが出掛けていきます。その様子に興味を持ったのでしょう。植物が増えたことで、生き物との出会いがぐんと増えました。

## 6月園庭プロジェクトについてのお詫び

前回の『わくわく園庭日記』で6月7日（金）に園庭プロジェクトを行うとお知らせしましたが、保育の都合上中止せざるを得なくなりましたこととお伝えいたします。過去に2回平日に行ったことがあり、子どもたちがいる中で作業することの充実感を味わっただけにとっても残念ですが、どうぞご理解ください。次回は11月16日（土）もちつきと共に園庭作業に取り組む予定です。お楽しみに！

くやしいけれど～

